



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和8年度

学校の窓 7月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

「リアル」な幸せ

校長 堀内 祐子

5月に栃木県で起きた強盗殺人事件につきましては、新聞報道等でご存じかと思えます。この事件では、実行役として相模原市や川崎市に住む16歳の男子高校生4人が強盗殺人容疑で逮捕されました。16歳の少年らは闇バイトで集められ、スマートフォンで指示を受け、現場に向かったとされています。

犯行に至るまでの彼らの動機や心理状態等については今後の捜査や裁判の過程で明らかになると思いますが、先日、毎日新聞のコラム「新・こころのサプリ」（海原純子氏）に彼らが犯行に及んだ心理的背景に関する興味深い指摘を見付けました。

コラムは「『家庭で居場所がない』『学校で孤立している』『将来が見えない』『承認されたことがない』などの悩みを抱えていて自己肯定感が低い若者は、犯罪グループに取り込まれやすくなる。」その理由として「犯罪者グループは、孤独な若者や将来に希望が見えない若者をSNSなどの投稿から見つけ出し、承認や居場所を与える形で心理的距離感を縮めていく。SNSの世界では疑似的な仲間意識が作り出される。現実の世界では孤独でも、SNSの世界ではニックネームと呼ばれ、すぐにレスポンス（応答）がくる。」と言及しています。そして、最後に「防犯教育に加えて、若者の精神的自立と自己肯定感を育てる教育が必要である。」と結んでいました。

SNSには手軽に自己表現ができたり、共通の趣味や目標をもつ人と簡単につながれたり、多くの情報を収集できたりなど、たくさんのメリットもあります。そこで得る「幸せ」もあるでしょう。バーチャルな幸せ（ゲームの快感やSNSの「いいね」）は、脳に手軽で強烈なご褒美（ドーパミン）も与えてくれます。しかし、まだ自制心が育っていない子どもは、簡単にバーチャルに依存してしまいます。もし、リアルな幸せ（現実の人間関係や身体を動かすこと）を十分に味わう前にバーチャルにのめり込んでしまうと、「思いどおりにならない現実＝つまらない、苦痛」と感じてしまい、現実世界を生きるパワーが育たなくなってしまいます。子どもに必要なのは、「リアル」と「バーチャル」の境を明確にできる力、リアルで満たされているからこそコントロールできる「道具」としてバーチャルを楽しめる力です。

「リア充」という言葉があります。「リアル（現実の生活）が充実している人」を意味する言葉だそうです。この5・6月に、5・6年生は移動教室に行ってきました。5年生は、グリーンパークで羊や馬などの本物の動物と触れ合い、キャンプファイヤーで友達との楽しい時間を過ごしました。6年生は日光の自然を満喫しながらその雄大さに感動したり、ふくべ細工を体験したりしました。移動教室の間はスマートフォンもゲームもテレビもありませんでしたが、子どもたちは、それぞれに充実した時間を過ごすことができました。まさに、その時間は「リアル」な友達関係や「リアル」な体験がもたらしたものだからだと思います。

もうすぐ、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。すでに、なにかしら計画を立てているご家庭もあるかと思えます。ぜひ、ご家族で長い休みにしかできない「リアル」な体験を通して「リアル」な幸せを実感できる有意義な夏休みにしてほしいと願っています。